

大学の研究者と 企業関係者の マッチングの場を提供

第4回YRP移動体通信 産学官交流シンポジウム開催

産学官交流の場であるYRP移動体通信産学官交流シンポジウムは本年で第4回目となり、7月10日(水)~11日(木)、YRPにおいて開催された。

本年のシンポジウムは、テクニカルセッションやアカデミアセッションはもちろんのこと、特別講演及び招待講演4件に加えて、特別セッション2件、ポスターセッション及び特別ブース展示からなり、海外からの特別講師陣の招聘なども含め、多彩なプログラム内容で実施された。

中国移動体通信の特別セッションは、躍進著しい中国の現況・政策・背景について中国から招待した講師により講演が行なわれ、参加者の強い関心をひいた。また、新世代移動体通信の国際標準化動向、研究開発動向の特別セッションは、海外

からの講師2名を含め4人のエキスパートリーダーから日・米・欧それぞれの最新状況について講演を頂き、参加者から高い評価を受けた。

開催初日の10日は日本列島が猛烈な台風の襲来を受けながらも、2日間で延べ約750名の熱心な参加者がYRPに結集し、熱気に溢れた産学官連携シンポジウムであった。



来賓挨拶 石原秀昭 総務省技術総括審議官

招待・特別講演

NTTドコモ 相談役 大星 公二氏
シンポジウムのオープニング講演として、NTTドコモ 相談役の大星公二氏より、「産学官シンポジウムに期待する」と題し、日本経済の成長発展を維持するためにはR&Dが重要で必要不可欠であるとの講演を頂き、YRPホール満員の聴衆も熱心に聴講していた。経済の低迷の状況下でR&Dの重要性を再認識した/非常に参考になった/印象に残ったとの意見が寄せられた。

早稲田大学 教授 富永 英義氏
早稲田大学 教授 国際情報通信研究センター(GITI) 所長 富永英義氏は、「産学共同研究の新時代のシナリオ」と題し、国際協力と産学連携をキーワードとして、先生の長年の経験・幅広い見識に基いた、GITI等で進められている計画・シナリオについて講演された。

テクノポール・ブレスト・イロワ - ゼ社
Executive Director, Ronan A. STEPHAN 氏
2日目の午前には、フランス Technopole Brest-Iroise 社 Executive Director のRonan A. STEPHAN 氏から、“Approach of Convergence: experimental platform” と題し、bi-directional broadband wireless solution として 40.5 - 43.5GHz 帯マルチメディア無線システムについて、更に Digital Communication Advanced Research Initiative (PRACOM) についても紹介された。

YRP ヨーロッパ・スタッフ 飯塚 宣生氏
元エリクソン社 シニア・アドバイザー 飯塚 宣生氏は、「ヨーロッパ・テレコム産業の対日戦略の概要 PDC 事業を廻っての駆け引き」と題し、日本に対する欧州の戦略という観点から講演された。



大星 公二氏



富永 英義氏



Ronan A. STEPHAN 氏



飯塚 宣生氏



中国特別セッション

中国特別セッション

「中国における電波情報通信の現状と展望」

中国は携帯電話の加入台数が世界一となっており、第3世代移動通信システムとしてTD-SCDMA方式の開発を進めているなど、研究開発面においても積極的に推進している。

YRPでは、昨年12月「日・中移動体通信技術フォーラム」を設立し、また、北京郵電大学及び中国移动通信連合会と研究交流に関する覚書(MOU)を締結するなど、中国との交流を深め

ている。

今回のシンポジウムでは、「中国における電波情報通信の現状と展望」と題した中国特別セッションを設け、中国普天信息产业集团公司副総裁の張延愛氏による「中国における移動体通信産業の発展」、中国移动通信連合会副会長の倪健中氏による「アジア地域における移動体通信の展望と合作」の2件の講演が行われた。



倪健中氏



張延愛氏

国際標準化セッション

YRPにおける研究開発活動において関係ある新世代移動体通信の標準化動向・研究開発動向について、日・米・欧州のそれぞれにおける最新状況を紹介してもらおうべく、その分野のエキスパー

ト・リーダーとして活躍しておられる4名の講演者を招聘した。タイトル、講演者名及び役職は、次のとおりであり、最先端の内容の講演が行なわれた。

1. "European standardization and 3GPP", Mr. Niels Peter Skov Andersen, Chairman of 3GPP TSG SA & TSG GERAN, Motorola PCS
2. "Wireless World Research Forum and Basic Investigations of New Radio Interface Concepts", Dr. Werner Mohr, Vice President Pre-Engineering, Siemens AG, ICM N
3. "Broadband Wireless-International Trends and Motorola Research", Mr. Kenichiro Hosoda, Director, Motorola Japan Research Lab.
4. "System beyond IMT-2000 に向けてのモバイル IT フォーラム (mITF) の活動状況", 滝 秀士氏, 松下通信工業技術本部ワイヤレスソリューション研究所 所長



Mr. Niels Peter Skov Andersen



Dr. Werner Mohr



Mr. Kenichiro Hosoda



滝 秀士氏

アカデミアセッション

アカデミアセッションは、大学等の研究室の研究活動を紹介するものであり、初日に慶応義塾大学、東京大学、北海道大学、明治大学、富山県立大学(1)、2日目に東京電機大学、横浜国立大学、富山県立大学(2)、新居浜工業高等専門学校の2回に分けて開催された。



シンポジウム会場風景



研究室紹介

テクニカルセッション

テクニカルセッションは、大学等における研究成果を発表し、産とのマッチングを目指すものであり、無線方式・誤り訂正、ネットワーク・ITS・通信システム標準化、アンテナ・電波伝搬、無線LAN、材料・デバイス、アプリケーションシステム、赤外線通信、OFDM、ネットワーク2の9セッションで、33件の発表が行なわれた。



ポスターセッション



ブース会場



テクニカルセッション YRP会場



テクニカルセッション DoCoMo会場



テクニカルセッション 松下会場

ポスターセッション

YRPロビーでのポスターセッションは、大阪府立大学・電気通信大学・東京工業大学・新居浜工業高等専門学校・横浜国立大学の5研究室が参加し、中には装置機器・システムの展示・実演を行った研究室もあり、意見交換等が熱心に行なわれた。

また、横須賀市産学官交流センター入居ベンチャー企業紹介、YRPアカデミア交流ネットワークやYRP国内外の提携サイエンスパーク紹介等の特別ブースも設置され、幅広い展示となった。



中日通信技術サミットフォーラム



東方通信視察

「中日通信技術サミットフォーラム」開催される 日中の移動体通信関係首脳が一同に集結

日・中移動体通信技術フォーラムは中国移動通信連合会（CMCA）と共催で、日中双方の移動体通信関係の首脳が一同に会する「中日通信技術サミットフォーラム」を5月19日、中国深セン市において開催した。

サミットの基調講演では日本側から総務省総合通信基盤局電波部長 鬼頭達男氏、中国側から信息产业部電子産品管理司元副司長 謝麟振氏の講演が行なわれた。

円卓会議では日本側から通信総合研究所理事長 飯田尚志氏、NTTドコモ取締役 歌野孝法氏、松下通信工業代表取締役社長 桂靖雄氏が代表して発言し、中国側からも産官の代表者が発言し会議

が進められた。

このサミットの席上、日・中移動体通信技術フォーラムと中国移動通信連合会の両者は、業務提携の覚書を締結し、日中両国間の移動体通信分野における交流を促進し、アジア諸国も含めた連携関係を強化することとなった。

また、同サミットの開催にあわせて日・中移動体通信技術フォーラムでは訪問団を結成し、5月19日から26日までの間、経済発展の目覚ましい中国沿岸部の深セン・東莞・杭州の各市を訪問し、移動体通信関連メーカー及びサイエンスパークを視察するとともに交流を行った。

海外との交流

「中国移動体通信講演会」 開催される

7月12日、東京・竹橋のKKRホテルにて、日・中移動体通信技術フォーラム（会長：齋昭男）、中国移動通信連合会（CMCA）、YRP研究開発推進協会の共催により、中国の移動体通信の現状及び展望をテーマにした、「中国移動体通信講演会」が200名の参加者を集め開催された。

講演会では齋会長から日・中移動体通信技術フォーラムの設立経緯・活動状況が紹介されたあと、総務省総合通信基盤局電波部長の鬼頭達男氏により「日本の移動通信の現状と動向」と題した基調講演が行われた。

その後、中国側3名の講師によ

る講演に移り、普天東方通信集团有限公司総裁の施継興氏による「チャイナ モバイルバレーの構築により3Gの新時代へ邁進させる」、中国普天信息产业集团公司副総裁の張延愛氏による「中国における移動体通信産業の発展」、中国移動通信連合会副会長の倪健中氏による「アジア地域における移動体通信の展望と合作」と題した講演がそれぞれ行われた。



挨拶をする齋会長



施継興氏

タイ国キングモンクット工科大学 (KMITL)と覚書(MOU)締結

4月30日、タイ国キングモンクット工科大学(KMITL)のプラキット学長をYRPに招き、研究交流に関する覚書(MOU)締結を行った。

KMITLは、タイ国内有数の電気通信分野の高等教育機関で、大学の名称に「タイにおける科学の父」と崇められる国王ラマ4世陛下の御名を拝している。

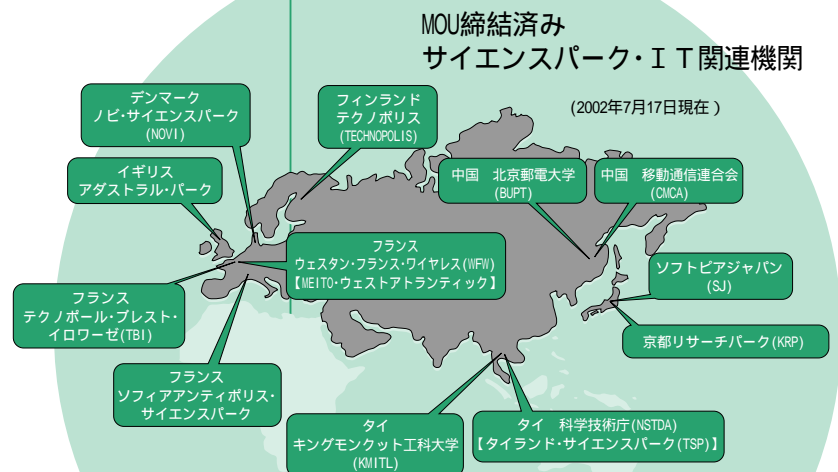
KMITLは、YRPとタイ国との連携を進めていくうえで重要なカウンターパートであり、本年2月に開催されたアジアワークショップ(AP-NeGeMo'02)においてもタイ側の事務局を務めた。

タイ国との間は、タイ国家科

学技術庁(NSTDA)とMOUを締結済みであるが、日本の通信総合研究所(CRL)との共同研究契約をもつKMITLはYRPとの連携強化を望んでいたことから、今回、独自のMOU締結となった。



YRPを訪問するプラキット学長



海外との新たな連携スタート

英国・BT研究所アダストラルパークと 覚書(MOU)締結

7月17日、YRPは、英国・BT研究所アダストラルパークと研究交流に関する覚書(MOU)締結を行った。

調印式には、アダストラルパークの推進責任者であるBTグループのクリス・アーンショーグループ・エンジニアリング・ディレクター兼最高技術責任者(CTO)とBT Japanの北里光司郎会長が出席した。

YRPからはYRP研究開発推進協会の羽鳥光俊名誉会長、甕昭男会長、横須賀テレコムリサーチパークの沢田秀男社長(横須賀市長)がYRP推進機関の代表者として署名した。

アダストラルパークは世界的に有名なBT研究所を受け継いで開設され、BT以外のハイテク企業にも門戸を開放している。4,000名以上がここを拠点として研究開発に従事し、現在も様々な通信会社および関連機関の進出が続いている。

今後、YRPとアダストラルパークは情報交換、人材交流、共同研究の推進、開発技術のマーケティング、イベント等の共同開催、広報活動、企業マッチング・紹介などの各項目について相互に協力していく予定である。



羽鳥名誉会長と挨拶を交わすクリス・アーンショー氏

イベント開催

モロッコ郵政・情報・通信技術担当 国務長官がYRPを視察

モロッコのハッジ郵政・情報・通信技術担当国務長官が7月2日、YRPを視察された。

YRP研究開発推進協会の齋昭男会長からYRPの概要説明が行われた後、通信総合研究所横須賀無線通信研究センター、通信・放送機構 横須賀ITSリサーチセンターを視察された。

モロッコ政府は「E-モロッコ戦略」により、欧州・アフリカの情報通信のハブを目指しており、「E-モロッコ戦略」のパイロット・プロジェクトとして昨年10月、同国のカサブランカに「ITテクノパーク」をオープンさせたばかりである。



齋会長と挨拶されるハッジ国務長官

「アドバイザリー会議」開催される

YRP研究開発推進協会の「アドバイザリー会議（旧：研究開発トレンド会議）が7月25日、YRPセンター1番館で開催され、YRP5ヶ年ビジョンと国際連携、産学官連携促進策、YRP5周年記念事業等について議論された。

アドバイザリー会議は有識者、会員企業、行政機関等の中から委嘱された委員が、横須賀リサーチパークにおける総合計画、研究課題及び研究体制等に関する助言・提言を行うために設置された会議であり、今回が8回目の開催である。



YRP研究開発推進協会 アドバイザリー会議委員名簿

議長	安田 靖彦	早稲田大学教授
副議長	森永 規彦	大阪大学教授
副議長	畚野 信義	(株)国際電気通信基礎技術研究所代表取締役社長
	飯田 尚志	独立行政法人通信総合研究所理事長
	石田 守	NTTコミュニケーションズ(株)代表取締役副社長
	石原 秀昭	総務省大臣官房技術総括審議官
	川田 隆資	松下電器産業(株)代表取締役副社長
	小谷 昌	京浜急行電鉄(株)取締役社長
	後藤 尚久	拓殖大学教授
	沢田 秀男	横須賀市長
		(株)横須賀テレコムリサーチパーク代表取締役社長
	武市 博明	富士通(株)取締役ネットワーク事業本部長
	津田 志郎	(株)NTTドコモ代表取締役副社長
		YRP研究開発推進協会副会長
	羽鳥 光俊	国立情報学研究所教授
		YRP研究開発推進協会名誉会長
	齋 昭男	YRP研究開発推進協会会長

(敬称略)

リサーチパークDAY2002の開催

5月31日、e-Japan構想の実動に向けて「リサーチパークDAY2002」が開催された。横須賀リサーチパーク(YRP)、京都リサーチパーク(KRP)、ソフィアジャパン(SJ)



3会場を超高速ネットワーク(JGN)で結んだ超高速ネットワーク(JGN)で3拠点を接続したグローバルセッション環境を構築し、各リサーチパーク主催のプログラムが、他の会場に配信され、遠方の様子が違和感なく参加者に届けられた。3会場の参加者は約400名を数え、新しい試みも成功裏に開催することが出来た。主なプログラムは以下のとおり。

- (1) e-Japanとリサーチパークの役割(3会場から他会場に配信)
- (2) 融合型人材の重要性と育成 医療の側面から (KRPより配信)
- (3) ネットワークコミュニティの形成 新しい公共モデル (SJより配信)
- (4) 今後のモバイルアプリケーション (YRPより配信)
- (5) オープンハウス on the NET ベンチャー企業からの発信 (3会場より)

T-Engine フォーラム設立

YRPでは、「いつでもどこでもコンピューター」時代の新しい通信基盤技術の開発を目的にして、「YRPユビキタス・ネットワークング研究所」を今年1月に設立したが、このたび新しい標準開発プラットフォーム形成を目的としてT-Engineフォーラムが発足した。T-Engineとは、同研究所の所長である東大坂村教授の提唱する「eTRON」アーキテクチャーを搭載し、携帯電話や携帯情報機器、情報家電などのネットワーク機器を効率よく開発する事ができる開発用キットのことで、その仕様をオープンにする事により、ミドルウェアの流通基盤として機能することによって、開発負担の軽減や製品品質の向上をはかる事が期待されている。設立直後でも既に加盟が37社にのぼり各方面から注目を集めている。



T-Engine フォーラムに関するお問い合わせ先

事務局/YRPユビキタス・ネットワークング研究所内
TEL/(03)5437-2270
e-mail/office@t-engine.org

ミリ波電波を利用した 集合住宅内配線システム実現に向け 調査検討会が発足

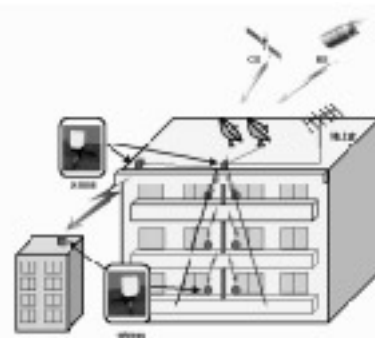
独立行政法人通信総合研究所（CRL）は、「集合住宅へのミリ波帯電波を利用した縦系配線システムに関する調査検討会」をこの度、発足させた。

「ミリ波帯縦系配線システム」とは、集合住宅の屋上と各世帯との間を縦方向にミリ波帯の電波を使用して無線接続し、衛星放送をはじめ様々なメディアの信号を伝送するシステムである。このシステムは、屋上と各家庭との間に同軸ケーブルあるいは光ファイバ等の有線を敷設する必要がなく、配線工事のコストを削減できるという特徴がある。

現在アンテナ設置場所や配線設備の関係で衛星放送の視聴困難な集合

住宅住民に朗報であり、ミリ波帯の電波は、その広帯域性から映像信号の多チャンネル伝送に適しており、高速データ伝送も可能なことから、集合住宅にブロードバンドのインフラを整備する手段としても期待される。

調査研究は1年間を予定し、その成果は規格化等へ反映し、製品実用化、市場への普及を目指す。



縦系配線システムのイメージ図

〔調査研究会概要〕

メンバー：埼玉大学、日本放送協会、J S A T、富士通カンタムデバイス、
(12機関) N E C ラボラトリーズ、沖電気工業、村田製作所、日立国際電気、
マスプロ電工、京浜急行電鉄、総務省、通信総合研究所

座 長：埼玉大学小林禎夫教授

事 務 局：Y R P 研究開発推進協会

企業・団体紹介

新しくYRPに進出された企業・団体をシリーズで自己紹介していただきます。

「YOROSHIKU-ONEGAI-SHIMASU!」

サイバーテック・ジャパン株式会社

住 所 YRPベンチャー棟212 TEL 0468-39-3436

はじめに、弊社は各種映像事業を経験した人材が集まっており、その映像技術をコンテンツ事業として今後のビジネスに生かしていこうと起業した会社です。3つの事業「ゲーム、GIS、携帯電話（モバイルコンテンツ）」を柱とし、YRPでは近隣に進出されている通信機メーカー、キャリア企業、ネット事業会社と共同でモバイルコンテンツの技術について開発をしていく事を目的としてベンチャー棟への進出を決定しました。

現在、様々な形でコンテンツ事業が各メディアで報道されたり、企業が進出していますが、インフラの整備やコンテン

ツ制作会社の不足などで、あまり有効なコンテンツが紹介されているとは思えない状況にあります。しかし映画やゲームまた音楽などのエンタテインメント業界のコンテンツは日々盛んに制作されており日常のように一般の方が触れる機会があり、大きなビジネスチャンスとして欧米だけでなく韓国などのアジア諸国でも発展している会社はたくさんあります。

弊社はこれまでにゲームの制作や、映像アプリケーションの開発に取り組んできた者とGISやCAD / CAM、デザインシステム、システムソリューションを経験した者が共同で両技術を融合させ、新しい



三次元GISのサンプル画像

分野でのコンテンツ制作やアプリケーション開発を行ってまいります。現在大手ゲームメーカーとゲーム機や携帯電話を利用したモバイルGISシステムや、車椅子のためのパリアフリーGISの開発に取り組んでおります。今後も映像を利用したシステムや、アプリケーション開発を中心に業務を拡大していきたいと取り組んでいきます。



WPMC'02

「第5回 国際移動通信 シンポジウム (WPMC'02)」 開催のお知らせ

開催詳細は、<http://www.wpmc02.gatech.edu>へ

「第5回 国際移動通信シンポジウム (WPMC'02)」が、10月27日から30日の間、ハワイ・ホノルルで開催される。

WPMC会議は、国際的な産学官連携促進のため、YRP研究開発推進協会と独立行政法人通信総合研究所 (CRL) が共催で毎年実施している国際会議であり、2003年の第6回は横須賀市で開催の予定である。



【予約・問い合わせ先】

ホテルYRP
TEL. 0468-47-2002 FAX. 0468-47-2131
E-MAIL. hotelyrp@beam.ocn.ne.jp
京急サポートセンター
TEL. 0468-47-6200 FAX. 0468-48-9728

【ホテルYRPの概要】

所 在 横須賀市光の丘7番2号
構造・規模 鉄筋コンクリート造 地上6階建
延床面積 1,739 m² (526坪)
施設内容 客室67室 パーラウンジ

ついに 9月10日 「ホテルYRP」がオープン！

京浜急行電鉄 (株) がYRP3番館脇に建設を進めていた宿泊施設「ホテルYRP」が9月10日 (火) にオープンする運びとなった。

この「ホテルYRP」は、主にYRP進出企業の就業者および来訪者向けのサービス施設であり、YRP地区全体における街づくりの一環として誕生する。客室は全67室 (シングル60室、ツイン7室) あり、

禁煙ルームを備えている。シングルルームにおいては、全てダブルサイズのベッドを用意、またインターネットが全室対応となっている。付帯施設としては、1階にバーラウンジを設け、軽朝食の無料サービスも行う。

客室料金については、本年11月30日までオープン記念料金として、通常シングル1人1泊6,800円のところ4,900円 (共に税込・軽朝食付) にて営業する。なお、予約等の受付は、「ホテルYRP」以外に「京急サポートセンター」においても行っている。

客室料金	シングル	1室	6,800円
	ツイン	1室	10,000円

税込 軽朝食無料サービス
オープン記念料金 (シングル/11月30日まで)
1室4,900円 (税込)

第4回ソフトボール大会開催

毎年恒例のYRP連絡会主催ソフトボール大会が6月5日よりYRPグラウンド・通研グラウンドで総勢23チームにより熱戦が和気藹々と繰りひろげられた。おりしも、梅雨と国民的行事ワールドカップの開催と重なり決勝戦が7月9日に両チーム応援のなか、TOURER V (松下通信工業) VS おべおべ (NTT DoCoMo) 間で争われ、16対8のスコアでTOURER Vの勝利で幕が降ろされ決勝戦後直ちに表彰式が行われ連絡会々長より優勝・準優勝チームへ優勝カップ及び記念品が手渡された。



TOURER V (松下通信工業)



おべおべ (NTT DoCoMo)



のむらオールスターズによる演奏

YRP イベント 報告

YRP夏祭り真夏の夜の競演

8月2日 (金) 夕方YRPセンターで催され各企業のミュージシャン・ダンサー多数の出演により賑やかに開かれ屋台が花を添え大盛況であった。YRP進出企業社員相互の親睦と地域住民の方々とのふれあい祭りで楽しい一夏の夜はふけて行った。

【編集・発行】

YRP研究開発推進協会
(株)横須賀テレコムリサーチパーク

〒239-0847 横須賀市光の丘3-4 TEL: 0468-47-5008 FAX: 0468-47-5010

〒239-0847 横須賀市光の丘3-4 TEL: 0468-47-5000 FAX: 0468-47-5010

<http://www.yrp.co.jp>